

しゅごてんし 守護天使と

じょうやとう 常夜灯

「お父さん、もうねなくちゃいけない？」とトーマス。

「今夜はもう十分お話を読んだからね。」とお父さん。

「お願い、お父さん。あと一つだけ。」トーマスが

しきりにねだります。

「トーマス、一体どうしたんだい？」目になみだがあふれてくるのをこらえているトーマスに気づいて、お父さんがたずねました。まだお父さんには話していなかったけれど、トーマスは最近、暗やみがこわいのです。

「何でもないよ。ただ、もう一つお話を聞きたかっただけ。」

お父さんはベッドのわきにすわって、トーマスにふとんをかけてあげながら言いました。「じゃあ、おとなしく横になっ
ていなさい。もう一つだけ、お話を
してあげよう。」

「これは、父さんがまだ小さくて、ちょうど
おまえくらいの年だったころの話だ。ある夜、父さんは
ねむれなくてな・・・」

「どうしてねむれなかったの？」 トーマスは
知りたくなってたずねました。

「本当は、ちょっとこわかったんだ。」

「何がこわかったの？」

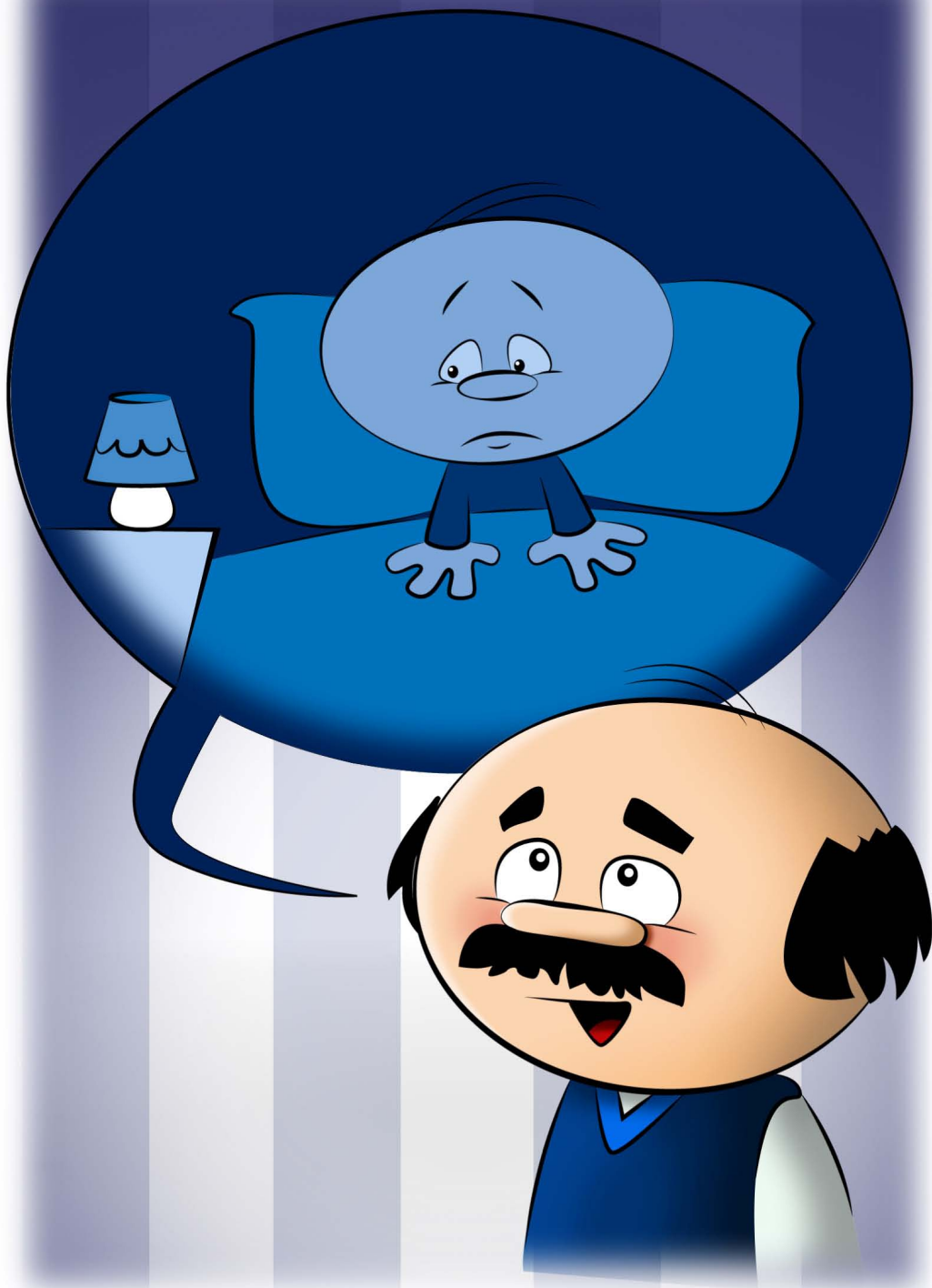
「暗やみがこわかったんだよ、トーマス。だれだって、
暗やみがこわいと思う時はあるものだ。」

「本当？ 大人でも？」

「さあて、その時父さんはまだ大人じゃなくて、
子どもだったがね。だが、大人だって、暗やみか何か
こわいと思うことはあるよ。さて、その夜わたしは、
もう夜をこわがらなくていいとわかったんだ。」

「どうして？ どうやってわかったの？」 トーマスは
いよいよ知りたくなりました。





お父さんはほほえみしました。今夜トーマスが
聞く必要のあるお話が何か、予想が当たって
うれしかったのです。

「わたしの母さんは、毎ばん部屋に小さな常夜灯を
つけておいてくれた。わたしが暗やみがきらいなのを
知っていたからね。だがある夜、ねむりについで後の
ことだ。目が覚めたら、常夜灯が消えていたんだよ。
周りは暗くて、父さんはだんだんこわくなってきた。」

「それで、どうしたの？」 トーマスが心配そうに
たずねます。

「父さんは祈ってイエス様に、暗やみがこわくない
ように、そして部屋の常夜灯がまたつくようにと
お願いした。すると、現れたんだ・・・わたしの
守護天使がね！」

「守護天使？ それ、なあに？」 トーマスは、
天使のことは聞いていましたが、守護天使なんて、
聞いたことがありません。

「イエス様は 弟子たちに、こう 言われたことがあるんだ。
『これらの 小さな 者を 一人でも 軽んじないように 気を
つけなさい。言っておくが、彼らの 天使たちは 天でいつも
わたしの 天の 父の み顔を あおいで(見て)いるのである。』¹
聖書には、こうも 書かれているよ。『主は、あなたのために、
み使いたちに 命じて、すべての 道で、あなたを 守るように
される。』²」

「つまり、ぼくを見守っている 天使もいるっていうこと？」

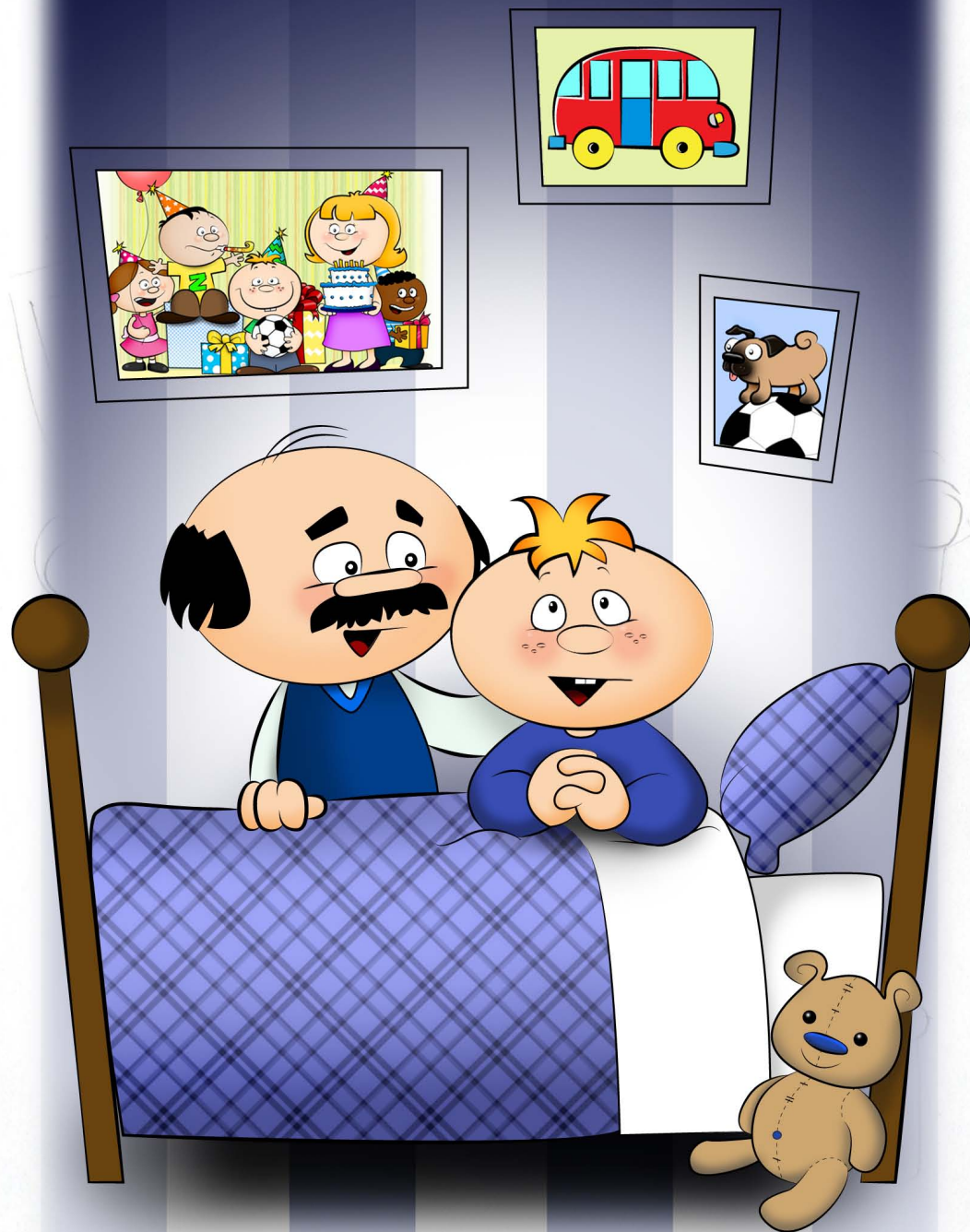
「もちろんだとも! そういう 天使を、守護天使って
いうんだ。父さんの 話にもどるが、部屋の 常夜灯が
つくようと 祈った ところだったね。その時、わたしの
守護天使が 現れて、そばに 立ったんだ。天使は、何も
こわがる ことはないよと 言った。イエス様が その 天使に、
いつも わたしと いっしょに いて 見守るようにと
命じられたからだそうだ。」

「すごい! その後、また その 天使を見た ことってあるの、
お父さん？」



¹ 新共同訳聖書、マタイによる福音書 18:10

² 新改訳聖書、詩篇 91:11



「トーマス、天使がいつも見えることよりも、天使がいつもいっしょにいてくれると知っていることのほうが大切だよ。そして、おまえにも守護天使がいる。その天使の仕事は、おまえの世話をし、いつもおまえを守ることだ。だから、何もこわがることはないんだよ。たとえ夜中に目が覚めて、まわりが真っ暗でもだ。さてと、少し元気がなったかな？」

トーマスは、自分の強い天使が見守ってくれていると考えると、心の中が温かくなってきました。

お父さんがのびをすると、トーマスはあくびをしました。

「では、夜のためのお祈りをするとしようか？」

トーマスがお祈りの言葉を言いました。「イエス様、どうぞ、お父さんとお母さんとケイトを祝福し、今ばんねている間もぼくたちを守ってください。ぼくが暗やみをこわがらないように助けてください。ぼくの世話をしてくれている守護天使を感謝します。アーメン。」

じきにトーマスはねむりましたが、その夜、夢を
見ました。夢の中で、大きなつばさと金色の光輪の
ある、背が高くやさしそうな天使が、片手に常夜灯を
もって立っていました。常夜灯は、やわらかい光を
部屋じゅうに放っていました。それはトーマスの
守護天使で、こう言いました。「よくおねむり。わたしが
君のために、一ばんじゅう起きて部屋を明るくしておいて
あげるからね。」トーマスは、何てやさしいんだろうと
思いながら、朝までぐっすりとねむったのでした。

トーマスは、何でも心配になったりこわくなったりした
時は、イエス様と自分の守護天使がいつもいっしょに
いてくれることがわかったのです。

お
終わり

作者:不明 編集:アリーヤ・スミス 絵:アルビ デザイン:クリスティア・コーブランド
掲載:マイ・ワンダー・スタジオ Copyright © 2012年、ファミリーインターナショナル
"The Guardian Angel & the Nightlight"--Japanese

<http://www.mywonderstudio.com/0-5/2012/11/12/the-guardian-angel-and-the-nightlight.html>

